2020 BF-G MINT 400

TEAM GEOLANDAR

参戦報告書

2020 年3 月

SUMMIT RACING PROMOTIONS

〒302-0105 茨城県守谷市薬師台 4-11-7

TEL&FAX 0297-46-2251

E-mail：summit.r@nifty.com

(1)　参加大会概要

大会名称	:	2020 BF-Goodrich MINT400
開催地	:	ネバダ州　ラスベガス　USA
開催日時	:	2020 年 3 月 3 日～8 日
スケジュール	:	3 月 3 日　イベントスタート
		4 日　レースカーパレードラン
		5 日　選手登録&車検　各レース
		6 日　選手登録&車検　各レース
		7 日　メインイベントレース
		8 日　表彰式

(2)　参戦概要

参戦チーム	:	TEAM　GEOLANDAR
チーム監督	:	坂巻勝彦（TAKE OFF）
ドライバー	:	塙郁夫（SUMMIT RACING PROMOTIONS）
Co ドライバー	:	荻原愼哉（TAKE-OFF）
		染宮弘和(ラリーストリーム)
チームサポート	:	UTV-PROs”
動画撮影	:	岩渕功尚(Buch フイルム)
参戦マシン	:	HILUX-Revo　ラリーレイド仕様
参戦クラス	:	クラス 7 (6 気筒アンリミテッド SUV)
参加台数	:	4 輪 246 台、UTV　93 台、バイク 186 台
		合計 525 台　（クラス 7・・・6 台）

(3)　参戦マシン概要　(HILUX-Revo ラリー仕様)

全長	:	4,700mm
全幅	:	1,980mm
全高	:	1,780mm
重量	:	2,000kg
エンジン	:	2GR-FSE (レクサス用　V6-3.5L)

駆動系	:	5 速 AT (シュヴェーレン社)　フルタイム 4WD
タイヤ	:	GEOLANDAR-MT　G-003　245/75-17
ホイール	:	WORK CRAG T-GRABIC　Baja スペシャル
オイル	:	Verity
シート	:	TRD
プロテクション	:	JAOS
ランプ	:	PIAA
ビルダー	:	塙郁夫（SUMMIT RACING PROMOTIONS）
特別協賛	:	㈱テクノシステム　（横浜市）

(4)　レース概要

メキシコで開催される「Baja1000」と並び、アメリカで最も伝統と人気のあるオフロードレースとして知られる「MINT400」。　今年も世界各国から525 台もの参加車両を集め、ラスベガスらしく華やかに開催されました。我々は当初、Baja 用の「Earth-Runner」で参戦予定でしたが、最終バージョンに進化させていたマシンの完成が遅れ、急遽、ラリーレイド仕様の「HILUX-Revo」にマシンをチェンジして参戦する事になりました。

ラリーレイド仕様というのは、レギュレーション上、今回の MINT400 の様なデザートレース仕様と比べると、タイヤが小さく、サスペンションのストロークも半分しかない為、圧倒的に不利では有りますが、熟成を重ねた HILUX-Revo なら、何とか善戦できるのではと期待しての参戦でした。

しかし、その期待を根底から崩されるスケジュール変更が発表されました。当初、我々の参加するクラス 7 は、上から 2 番目にあたるグループのレースで走る予定でしたが、急遽、メインイベントの最終レースに出走する事になってしまいました。このレースには 800 馬力オーバーのトロフィートラックや Baja トラック、そして F1 相当のクラス 1 バギーなど、総合優勝を狙うマシンが一気に 80 台もコース上に解き放たれる、最も危険なレースです。この時点で最後尾スタートが決定。 他のマシンとはスピード差が倍近く有るため、1 周 171km のコースでも直ぐに周回遅れになる事が確実。 前のマシンに追いついたら、後ろからぶつけて退かすのが常識のこのレースでは、とにかくモンスターマシンに食い殺されずに生き延びる事が最大の目標となり、スタートを切りました。

いざ走り出してみると、マシンは絶好調ながら、既に 400 台以上のマシンが 4 周を走り終え、今まさに 40 インチ外径のタイヤ＋800 馬力以上で掻きむしられているコースは想像を絶する荒れよう、深い轍の為コースの殆どで HILUX はマシンの腹を強打しながらの走行。更にコースの半分以上は岩だらけの路面の為、パンクやマシンへのダメージに細心の注意を払いながら、何とかクラス 2 位で 1 周目をクリアー。 しかし、メインピットでマシンをチェックしてみると、岩で強打されたアームにクラックと、殆ど砂利の中で回転していた感じのフロント CV ジョイントは、石を噛み込み、左右共にブーツが外れていました。これらの修理に少し時間を浪費してしまったが、マシン自体は快調で、ラリーコースレベルの路面なら、化物マシンにも負けない走りが出来る。 気を取り直し、とにかく完走目指して 2 周目に突入。トップグループのマシンに何度かオカマを掘られながらも生き延び、唯一、気持ちよく全開で走れるドライレイクに到達。1 周目では抑えながらも 172km の最高速を記録していたので、今度は 180km を目途に高速巡行に入ったが突然、何の予兆も無くエンジンがストップ。 マシンを安全なコース脇まで転がしチェックしてみると、エンジンのファンベルトが半分幅だけ切れ、その切れ端がエンジン制御系の配線に絡まり、配線を 4 本も破断していた。

その場で直ぐに切れた配線をつなぎ直しましたが、ショートした影響でセンサーが壊れたのか、エンジンは 2 度と息を吹き返しませんでした。
原因は、細かな砂利が運悪くプーリーに噛み込み、ベルトを破断したと推測されます。この様なベルトへの噛み込みトラブルは珍しい事ではないのです

が、殆どの場合は直ぐに外れてしまうだけで、今回のように配線を切ってしまうのは珍しい事です。　高回転巡行中だった事もあり、運が無かった様です。

＊ここに並ぶと、まるで軽トラ。

＊UTV-PROs” のサポートクルー達と。

まとめ

今回のレースも、マシンガン相手に竹やりで喧嘩を売るような挑戦になってしまいましたが、HILUX-Revo の完成度を確認できた事は大きな収穫でした。245/75-17 の GEOLANDAR G-003 MT は、他のマシンのタイヤサイズと比べると、まるで軽トラのタイヤですが、それでも全く不安は無く、事実パンクも大きなダメージも無く走れた事も嬉しい収穫でした。

また、デザートレースにラリーレイド仕様で挑戦する事も無謀は承知ですが、マッチョなマシンを見慣れたアメリカのファンにとって、我々のラリーレイド仕様はとても知的に見えたらしく「Japanese Cool」だと予想以上に好評で、合わせてアメリカでは販売していない「HILUX-Revo」の人気の高さにも、改めて驚かされました。

結果としては、ご支援頂いている皆様のご期待に応えられない成績で誠に申し訳ありませんでしたが、諦めずに挑戦し続ける事が最終的には一番の成果を生むと、今回のレースでも改めて感じさせられました。　これに懲りずに今後とも引き続き、ご支援ご協力をお願いいたします。

2020 年 3 月　SUMMIT RACING PROMOTIONS 代表　塙　郁夫